【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成20年2月14日(2008.2.14)

【公表番号】特表2007-534790(P2007-534790A)
【公表日】平成19年11月29日(2007.11.29)
【年通号数】公開・登録公報2007-046
【出願番号】特願2006-549332(P2006-549332)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｌ 101/00 (2006.01)
Ｃ０８Ｋ 5/00 (2006.01)
Ｇ０２Ｂ 5/122 (2006.01)
Ｇ０９Ｆ 13/16 (2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｌ 101/00
Ｃ０８Ｋ 5/00
Ｇ０２Ｂ 5/122
Ｇ０９Ｆ 13/16 Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成19年12月25日(2007.12.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
ポリマー；
蛍光性着色剤がペリレンイミド誘導体ではないと規定される、退色しやすい蛍光性着色剤；および
分子量が約1,200AMUよりも大きいヒンダードアミン系光安定剤、ここで、該ヒンダードアミン系光安定剤は少なくとも1つの第二級または第三級のヒンダードアミンを含み、約1,000未満の分子量のヒンダードアミン系光安定剤を有する組成物よりも実質的により長い時間、色を維持し得る、
を含有する、耐退色性の蛍光性着色剤組成物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項８】
蛍光性着色剤が、ベンゾピラン、クマリン、キサンテン、チオキサンテンまたはチオインジゴイド誘導体を含む、請求項１記載の組成物。
【手続補正３】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１３】
ポリマー；

蛍光性着色剤がペリレンイミド誘導体でないと規定される、退色しやすい蛍光性着色剤；
分子量が約1,200AMUよりも大きいヒンダードアミン系光安定剤、ここで、該ヒンダードアミン系光安定剤は、少なくとも1つの第二級または第三級のヒンダードアミンを含み、約1,000未満の分子量のヒンダードアミン系光安定剤を有する組成物よりも実質的により長い時間、色を維持し得る；
を含む着色剤組成物、および
透明な光学素子のアレイを含む再帰反射構造体、
を含む、耐退色性の再帰反射性物品。
【手続補正４】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１４】
蛍光性着色剤が、キサンテン、チオキサンテン、フルオレン、ナフチルアミン、ナフチルイミド、ナフトラクタム、アザラクトン、メチン、オキサジン、チアジン、ベンゾピラン、クマリン、アミノケトン、アントラキノン、イソビオラントロン、アントラピリドン、ピラニン、ピラゾロン、ベンゾチアゼン、またはチオインジゴイド誘導体を含む、請求項１３記載の物品。
【手続補正５】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項２２】
蛍光性着色剤がペリレンイミド誘導体でないと規定される、退色しやすい蛍光性着色剤；および
分子量が約1,200AMUよりも大きいヒンダードアミン系光安定剤、ここで、該ヒンダードアミン系光安定剤は、少なくとも1つの第二級または第三級のヒンダードアミンを含み、約1,000未満の分子量のヒンダードアミン系光安定剤を有する組成物よりも実質的により長い時間、色を維持し得る、
をポリマー中へ取り込むことを含む、耐退色性の着色剤組成物を形成する方法。
【手続補正６】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項３１】
退色しやすい蛍光性着色剤；
分子量が約1,200AMUよりも大きいヒンダードアミン系光安定剤、ここで、該ヒンダードアミン系光安定剤は、少なくとも1つの第二級または第三級のヒンダードアミンを含み、約1,000未満の分子量のヒンダードアミン系光安定剤を有する組成物よりも実質的により長い時間、色を維持し得る、
をポリマー中へ取り込むことによって耐退色性の着色剤組成物を形成すること、ならびに再帰反射素子のアレイと該耐退色性の着色剤組成物を結合することによって耐退色性の再帰反射性物品を形成すること
を含む、耐退色性の再帰反射性物品を形成する方法。
【手続補正７】
【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項３２】
退色しやすい蛍光性着色剤が、キサンテン、チオキサンテン、フルオレン、ナフチルアミン、ナフチルイミド、ナフトラクタム、アザラクトン、メチン、オキサジン、チアジン、ベンゾピラン、クマリン、アミノケトン、アントラキノン、イソビオラントロン、アントラピリドン、ピラニン、ピラゾロン、ベンゾチアゼン、またはチオインジゴイド誘導体を含む、請求項３１記載の方法。